

神奈川大学はニュースパーク（日本新聞博物館）の特別会員校です。

学生（学部生・大学院生）は原則入館無料のほか、
博物館施設を無料利用できるなど様々な特典が受けられますので、
ぜひ積極的にご活用ください！

NEWS PARK

The Japan Newspaper Museum

博物館ガイド

【主な特典】

- ・ 神奈川大学の学生は原則入館無料！
- ・ 博物館施設（イベントルーム・多目的ルーム）の利用が無料！
- ・ 博物館資料の貸し出しが可能！



 NEWS PARK

The Japan Newspaper Museum

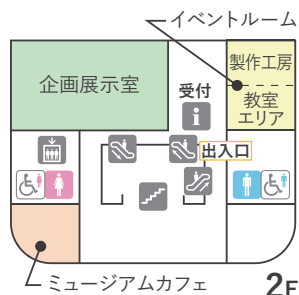
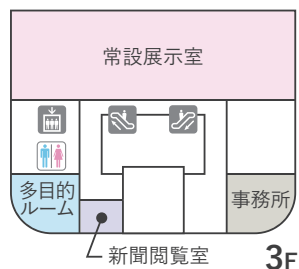


▲ホワイエには、日本新聞協会加盟の新聞 100 紙以上を一堂に展示しています。

ようこそニュースパーク（日本新聞博物館）へ

ニュースパーク（日本新聞博物館）は、日刊新聞発祥の地・横浜で、日本新聞協会が運営する情報と新聞の博物館です。デジタル化の急速な進展により大量の情報があふれる今、わたしたちには、情報を見きわめる力が求められています。その中で、新聞は長い歴史を通じて、確かな情報を届けるために日々努力を重ねてきました。当館の展示から、情報社会と新聞・ジャーナリズムの役割について、考えていただければ幸いです。

当館は、NIE(Newspaper in Education、教育に新聞を)の取り組みを念頭に置きながら、学校教育との連携に力を入れています。子供から大人、シニアまで、幅広い方の「学びの場」を目指します。



オリジナルキャラクター

アンぱくん

■ モニュメント輪転機

博物館のシンボルモニュメントとして設置されたV BW型新聞オフセット輪転機は、1979年から97年まで、実際に静岡新聞社で使われていたものです。



2F

企画展示室

テーマに沿った企画展を随時開催しています。

イベントルーム・製作工房

イベントルームや製作工房では、団体向けに「パソコンで新聞づくり」「新聞レクチャー」「取材クルーズ」などのプログラムを開催し、学校の校外学習や企業・地域団体の研修などで多くご利用いただいています。個人向けにオリジナル新聞づくりを毎日実施しているほか、新聞を使ったワークショップやイベントも随時開催しています。



すべての人の 学びの場

体験

マイ新聞づくり

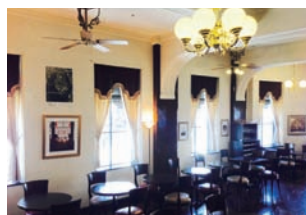
製作工房では、いつでもオリジナル新聞づくりを体験できます。90文字の記事を書いて写真を組み込めば、どこにもない世界に一つだけの新聞が完成！ 来館記念にぜひつくってみてください。

- ◆ 事前予約は不要
- ◆ 所要時間は約 20 分
- ◆ 写真はその場で撮影します



ミュージアムカフェ 「CAFÉ de la PRESSE」 カフェ ドゥ ラ プレス

「記者が集まるパリのカフェ」をイメージしたフレンチスタイルのカフェです。



3F

新聞閲覧室

全国の新聞約 130 紙を1週間分配架しており、自由に読むことができます。記事データベースも無料で閲覧できます（プリントアウトはできません）。



多目的ルーム

イベントやワークショップを随時実施するほか、校外学習でお越しいただいた学校の昼食場所としてご利用いただけます。イベントや昼食利用がない場合は、休憩スペースとして開放しています（自動販売機設置）。



新聞のあゆみ

横浜が開港すると、海外から人、モノ、情報が開港地へ入ってきます。鉄道、銀行など日本初のものが次々と横浜で誕生する中で、日刊新聞も生まれました。戦争の時代を経験し、日本の民主主義を支えていく役割を担った新聞が、これまであゆんできた道のりをたどります。

明治・大正の新聞の発展

江戸時代のかわら版を前史とし、日本初の日刊新聞の誕生（明治3年）を経て、新聞が大きく発展していったのが明治・大正時代です。新聞社の経営的な発展も言論メディアとしての新聞の影響力を高めました。



戦時統制期

戦争の時代、新聞は言論統制を受け、戦時体制に組み込まれていきます。当時の資料から、戦争と新聞の問題について考えます。



戦後の再出発と現代

戦後の新聞の再出発から現代までの歴史をたどります。新聞は日本の政治や社会のあり方を多面的に報じてきました。災害報道は、自然災害の多い日本の新聞にとって、特に重要な役割です。



新聞を支えた技術

新聞社は読者に早く、正確な情報を、読みやすい紙面で届けるため、常に新しい技術を取り入れてきました。特に戦後、2度にわたる大きな技術革新が新聞製作のスピードアップと質の向上、効率化を進展させました。





ジャーナリズムの使命と誓い



「新聞倫理綱領」は権力を批判する新聞が自らを律するためにつくられたものです。日本新聞協会加盟社はこれを順守しています。



資料情報公開アーカイブ

所蔵資料約 20 万点のうち約 500 点の資料を画像付きで紹介しています。画面をタッチすると、資料情報を拡大して見ることができます。



3F

■ 常設展示室

情報社会と新聞



現代に生きるわたしたちは、たくさんの情報に囲まれて暮らしています。デジタル技術で人と人の新しいつながりが生まれる一方、間違った情報や不確かな情報もあふれています。そうした現代社会の中で、確かな情報を届けるために日々努力しているのが新聞であり、新聞記者です。ここでは、現代の情報社会の特徴を学び、新聞の役割を考えます。

情報タイムトンネル

人類の情報化の歴史を、映像と音で体感していただけます。現代に近づくにつれて、情報の量が爆発的に増えており、わたしたちが大量の情報の中で暮らしていることが分かります。



新聞が届くまで

新聞が毎日、読者に届くまでには多くの人がかかわっています。取材、編集のコーナーでは情報を確認することの大切さや分かりやすく伝える工夫を紹介します。広告、事業、デジタル、印刷、配達の各コーナーでは、新聞社の日々の仕事を体験型展示とともに解説しています。このコーナーには、楽しく学ぶ仕掛けがたくさんあります。

情報社会とわたしたち



間違った情報によって起きたさまざまな問題を新聞記事やマンガで振り返り、情報を見抜く力について考えます。「ちがいを見てみよう」のコーナーでは、同じ出来事を取り上げた各紙の紙面や昔話をモチーフにした「日本メディアばなし」で、複数の情報を比べることの意味を学びます。

現代の新聞とジャーナリズム

大量の情報があふれる現代社会で、信頼される情報を届けるのが新聞の仕事です。何度も情報のチェックを重ね、正確で分かりやすいニュースを発信するとともに、インターネットの検索だけでは世に出ない事実を掘り起こし、人々に伝える役割を担っています。そうした役割を果たせるように日々努めている新聞記者の仕事を紹介します。



新聞を知ろう

新聞がどうやって作られ、届けられているのかを知り、新聞の魅力や面白さに出合うゾーンです。新聞配達ゲームや新聞で遊べる小部屋で、まずは新聞と触れ合ってみましょう。



取材体験ゲーム 横浜タイムトラベル



横浜港周辺の街並みを再現したジオラマにタブレット端末をかざすと、過去へとタイムスリップ。新聞記者になって、「横浜発展」「日本大通り」「山下公園」の3つのテーマで、開港地・横浜をめぐる秘密を取材で解明していきます。最後に取材内容に沿った新聞ができあがり、持ち帰ることができます。できた新聞を周りの人と見比べてみてください。





ニュースパーク（日本新聞博物館） ご利用案内

■入館料

一般	400 円	※20人以上の団体は100円引きとなります。 事前に電話でご予約ください。
大学生	300 円	※障がい者手帳をお持ちの方と付添の方1名は無料です。
高校生	200 円	※校外学習の引率の先生方は、学生・生徒・児童と同じ料金で入館いただけます。
中学生以下	無 料	

■開館時間

10:00～17:00（入館は16:30まで）

■休館日

月曜日・12/29～1/4（月曜日が祝日・振替休日の場合は次の日）
※詳しいご案内は、ニュースパークの公式サイトをご覧ください。

■交通アクセス

- みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口（情文センター口）直結
 - JR根岸線・横浜市営地下鉄「関内駅」徒歩10分
 - 横浜市営バス「日本大通り駅県庁前」徒歩1分
 - 観光スポット周遊バス・あかいくつ「日本大通り」下車 正面
 - 首都高速「横浜公園出口」から 約3分
- ※横浜情報文化センター駐車場・日本大通り地下駐車場をご利用ください。



〒231-8311 神奈川県横浜市中区日本大通 11 横浜情報文化センター
電話：045-661-2040 FAX：045-661-2029

詳しい情報は
WEBで！

ニュースパーク

🔍 検索

<https://www.newspark.jp>

